

もや同三十に書曰莫あふしも金津に華
名ハ己は西夷昆十七郡越後下野に子をも
然るも大名にてもり（尤大磯に立上るに今に
新波屋形と稱して世々の執合をいひてを
尤そ家をはる戦とて承傳りといふ義光ハ
為親より七代義孝のふり（義孝天正十八年五月
十七日七十歳にて卒）
天文十五丙午年誕生（義孝十九年四月十八日
六十九歳にて卒） 嫡
子を源理方とて義康といひり義光臣下の義
を佐し義康と和しあはせ 家康公ハ
法因を中上二男駿河守を以て忠督と

お誂し義康を言新子入んとて法因（下し
小玉より宅とんとて田川郡丸墨村に伏乞
を至戸井中たあつといふもの多統よりて義
康を討立首を山形（まゝ義康の仇といふ
東海林とて義康宗長といふもの伏乞多
切殺し義子討死を歎首を至るあ服を聞
事少のこし一人大はあも首死難といふ
善法寺（ちよ）ありて火葬け事羽源記より人
より

義孝之和記曰言上源子弟家範といふ人